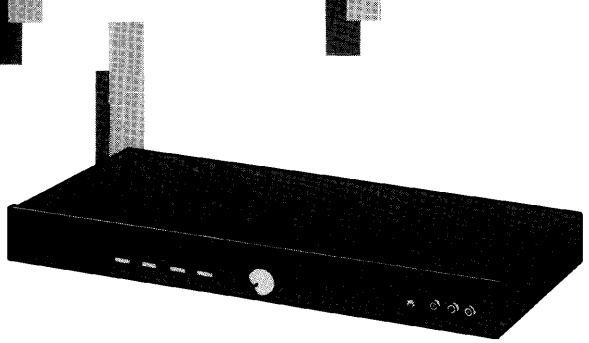
Panasonic

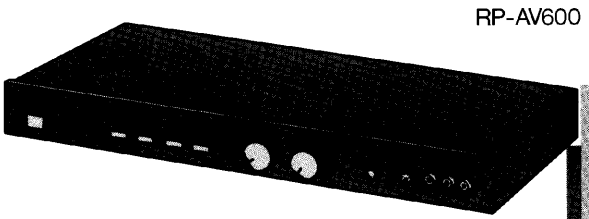
品番 RP-AV600/AV610

AVセレクター
取扱説明書

保証書付



RP-AV600



RP-AV61

目次

特長……2
各部の名称と働き……3
接続のしかた……4〜8
- ●接続コードについて……4
- ●システム接続例……5
- ●モニター出力への接続例……6
- ●入力1および出力1への接続例……7
- ●入力2、または入力3への接続例……8
- ●入力4とマイクへの接続……8

使いかた……9〜13
- ●お好きなビデオ機器の映像を見るとき……9
- ●編集をするとき1、2、3……10〜11
- ●ミキシング編集をするとき1、2……12〜13

使用上のご注意……14
仕様……14
アフターサービスについて……14

■この説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。そのあと大切に保管し、わからないとき再読してください。

■保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入を確かめて、販売店からお受取りください。

特長

1 S映像端子付のビデオ機器およびテレビにも対応できます。(S映像対応は入力2回路、出力1回路、モニター1回路)

2 4台のビデオ機器から、お好みのビデオ機器の映像を選んでモニターできます。

3 3台のビデオ機器の映像のうち一つを選んで4台目のビデオデッキに編集でき、その編集中にスイッチの切り換えでお好みの映像をモニターできます。

610 **4** 編集中に、ソースの音声にマイクロホンでのナレーションなどお好みの音声をミキシングすることができます。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

ご注意

本機に接続できるテレビ(モニター用)は映像音声入力端子(ピンジャック)またはS端子(YC分離映像入力端子)付きのものに限ります。

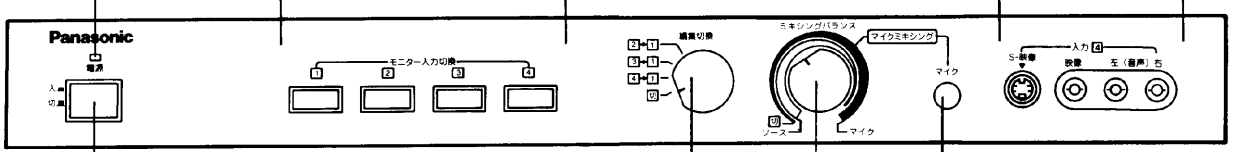
各部の名称と働き

(前面)

610 電源表示イジケータ
電源スイッチの"入"、"切"の状態を表示します。

モニター入力切換スイッチ
お好きなビデオ機器を選んで見るときに使います

映像・音声入力端子4
S映像端子・映像端子と音声(左)、(右)端子があります。



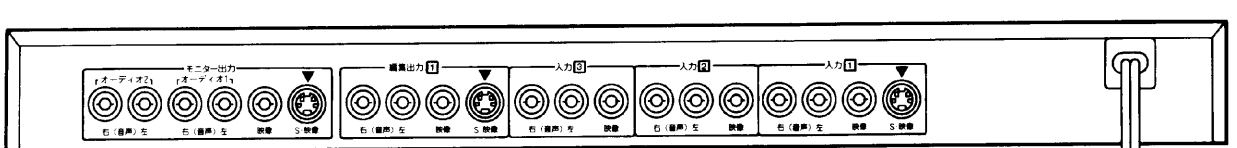
610 電源スイッチ
電源の"入"、"切"を行います。"入"にすると電源表示インジケータが点灯します。
(長時間お使いにならないときは、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください)

610 マイクジャック
マイクミキシング用(編集時など)のマイクロホンのプラグ(直径6.3㎜大型プラグ)を接続します。

610 ミキシングバランスボリューム
編集ミキシングの時、編集前のテープの音(ソース)とマイクロホンからの音とのバランスを変えます。

編集切換スイッチ
編集するときに使います。
2⇨1：2のビデオ機器の映像*を1のビデオ機器(ビデオデッキ)に編集します。
3⇨1：3のビデオ機器の映像*を1のビデオ機器(ビデオデッキ)に編集します。
4⇨1：4のビデオ機器の映像*を1のビデオ機器(ビデオデッキ)に編集します。
切：編集しないときは、切の位置にしておきます。
*映像(映像・音声を表わします。以下同様)

(後面)



モニター出力端子

編集出力1端子

入力1～3端子
ビデオ・オーディオ機器の出力端子に接続します。

610 電源プラグ

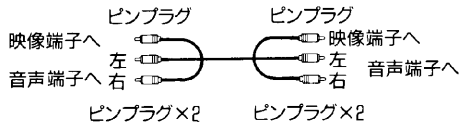
610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

接続のしかた

接続コードについて

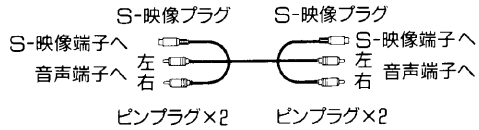
接続するビデオ機器に応じて、別売りの接続コードをお選びください。

相手がステレオビデオ機器の場合



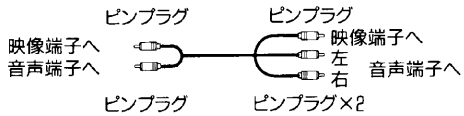
品番：RP-CV21A、CV22A
RP-CV405、CV410、CV420など

S-映像端子付のビデオ機器の接続用



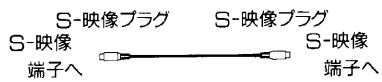
品番：RP-CVS11、CVS22など

相手がモノラルビデオ機器の場合



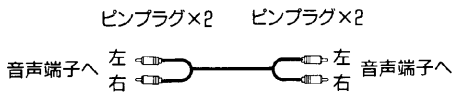
品番：RP-CV16A、CV17A
RP-CV305、CV310、CV320など
（本機に接続するビデオ機器、モニターテレビがモノラルの場合に使用します。）

S-映像端子間の接続用



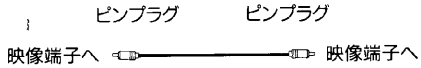
品番：RP-CVS10、CVS20など

音声端子間の接続用



品番：RP-CA23A、CA27Aなど

映像端子間の接続用



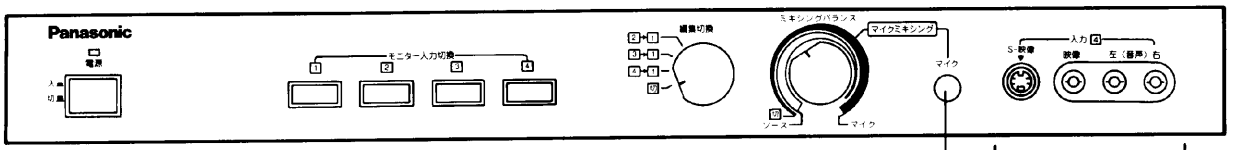
品番：RP-CV2A
RP-CV105、CV110、CV120など

接続するときのご注意

1 接続コードは、プラグの“ツマミ”の色とジャックの色を合わせて接続してください。（赤と赤、白と白、黄と黄というように。但しモノラルの場合は黒のプラグツマミを白のジャックに接続する場合があります。）
2 コードを抜くときは必ずプラグのツマミを持って抜いてください。コードを引っ張ると断線の原因になります。
3 プラグの接続はしっかりと差し込んでください。不十分な場合は雑音や映像の乱れの原因になります。
4 接続時のノイズの発生を防ぐために、接続する機器の電源を切ってから接続してください。
5 本機は雑音や映像の乱れを防ぐため、テレビやオーディオ・ビデオ機器、パソコン等から離して設置してください。
6 接続と操作については各ビデオ機器やテレビの取扱説明書もごらんください。

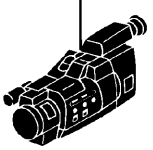
システム接続例

接続は一例を示したものです。接続する機器の説明書もよくお読みください。
各機器の接続については6ページ以降もお読みください。
接続するときは各機器の電源を切ってください。

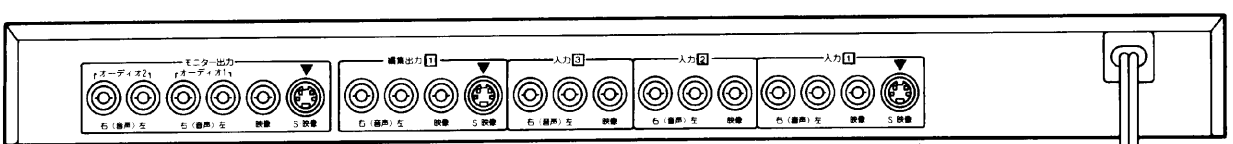


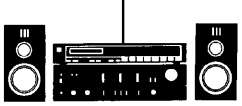
610 マイクロホン

「入力4」と「マイク」への接続例。
（8ページ）



ビデオカメラ

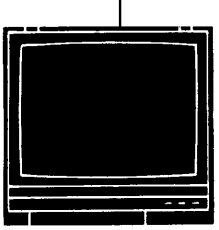




ステレオアンプ

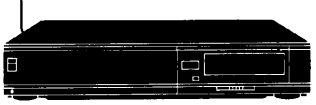
「モニター出力」端子への接続例（6ページ）

「モニタ出力」端子への接続例。（6ページ）



テレビ（映像入力端子またはS-映像入力端子付）

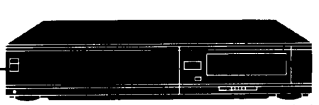
「入力1」および「編集出力1」への接続例（7ページ）



ビデオデッキ

「入力2（または3）」への接続例（8ページ）

ビデオ/ビデオカメラ/ビデオディスクなど

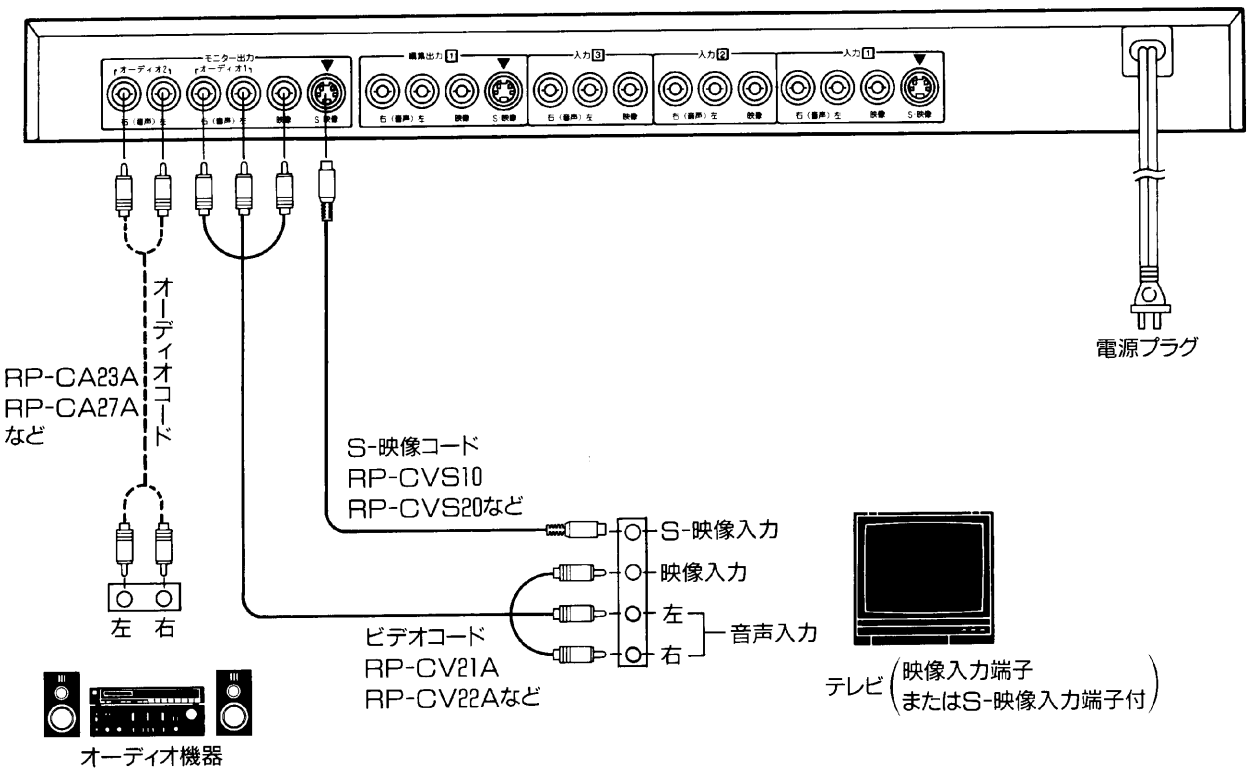


ビデオ/ビデオカメラ/ビデオディスクなど

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

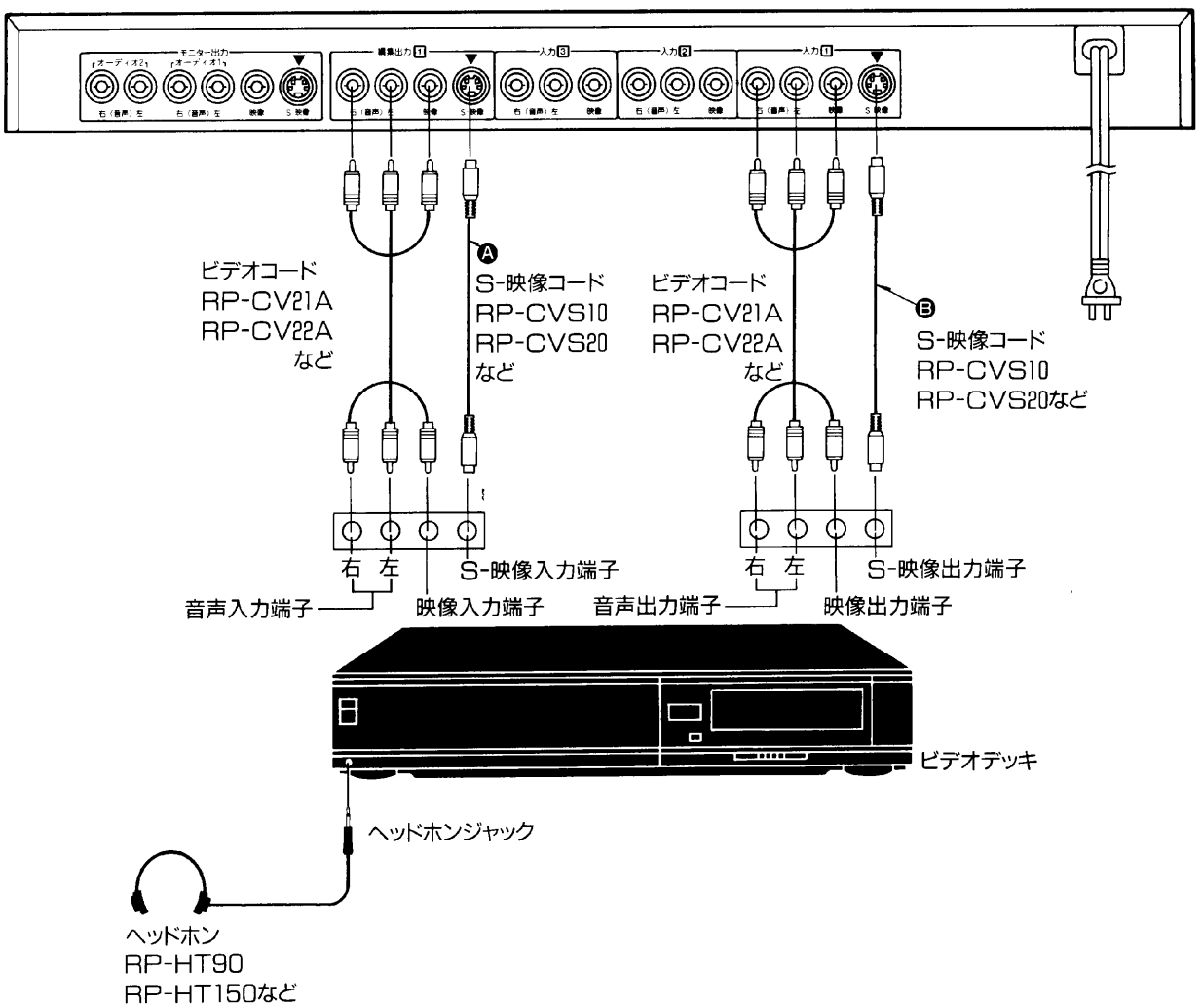
接続のしかた(つづき)

「モニター出力」への接続例



- 入力1または入力4端子にS-映像端子のないビデオ機器を接続する場合、図のS-映像コードは必要ありません。
- 「オーディオ1」：図のようにテレビに接続します。
  「オーディオ2」：オーディオ機器への接続のときやスピーカのない「カラーモニターテレビ」をお使いになるときは図の点線のようにオーディオ機器に接続してください。

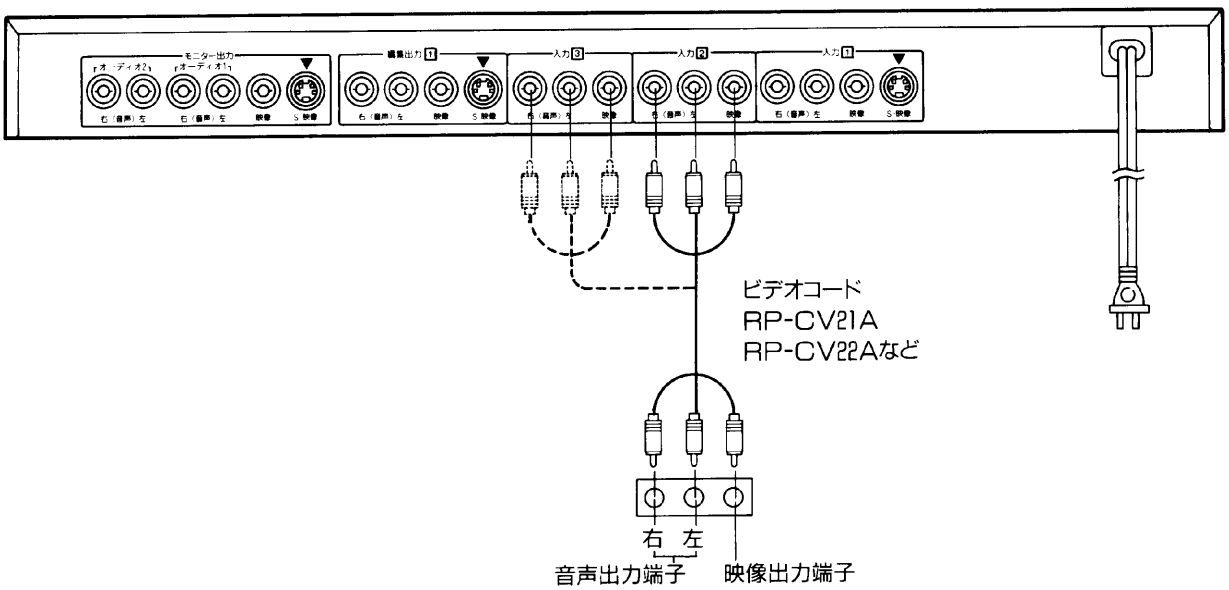
「入力1」および「編集出力1」への接続例



- 編集をするときは「入力1・編集出力1」には必ずビデオデッキを接続します。ビデオデッキが2台以上ある場合は、録画性能の最もよいものをこの端子に接続してください。
- この図にあるビデオデッキ（「入力1」・「編集出力1」に接続するもの）以外のビデオ機器にS-映像端子がない場合は、図の「S-映像コード」（Ⓐ, Ⓑ）は必要ありません。
- 上記接続例以外にもS-映像端子の接続用コードがあります。4ページをご参照ください。

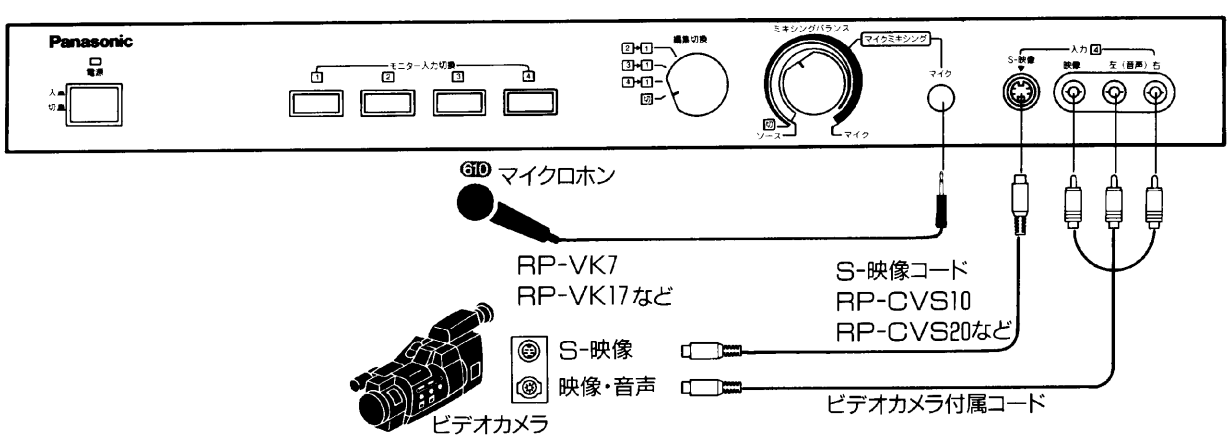
接続のしかた(つづき)

「入力2(または3)」への接続例



●入力2(または3)には、ビデオ機器の映像・音声出力端子を接続します。(ビデオ機器のS-映像出力端子からの接続はできません)

「入力4」と「マイク」への接続例



●ビデオカメラの代りにビデオデッキやその他のビデオ機器、オーディオ機器を接続する場合は、カメラ付属コードの代りにビデオコードやオーディオコードを接続してください。(4ページを参照してください。)

●「編集出力1」端子にも、「モニター出力」端子にもS-映像コードを接続しないときは「入力4」にS-映像コードを接続する必要はありません。

610 マイクミキシング編集をするときは「マイク」端子にマイクロホンプラグを接続してください。マイクロホンのプラグがミニプラグ(直径3.5mm)で、本機に合わないときは、別売の変換プラグアダプタ「ミニ→大アダプタM」RP-PA61Aを併用してください。

610 マイクロホンをお使いにならないときは、マイクロホンプラグを「マイク」端子から抜いてください。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

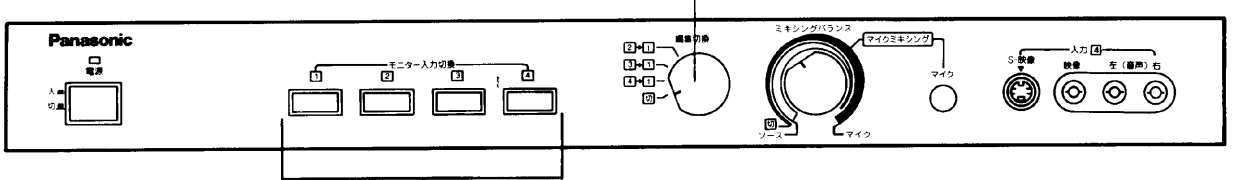
使いかた

ご使用に当っては、接続するビデオ機器の取扱説明書をよくお読みください。

お好きなビデオ機器の映像を見るとき(モニター)

■4ページから8ページまでの「接続のしかた」に従って、接続をしてください。

1 「編集切換」スイッチを「切」の位置にします。



2 「モニター入力切換」スイッチを切り換えます。

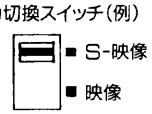
■例えばビデオ機器1の映像を見たいときは「1」のスイッチを押します。

3 ビデオ機器を再生(プレイ)状態にします。

ご注意

- モニターしたいビデオ機器とテレビが「S-映像コード」で接続されているときは、テレビ(テレビモニター)の映像入力スイッチは必ず「S-映像」に、そうでないときは「映像」に切換えてください。

入力切換スイッチ(例)



詳しくは、テレビの取扱説明書をお読みください。

- モニターだけの時は、電源不要です。
  電源プラグをACコンセントに接続する必要はありません。電源スイッチも操作不要です。

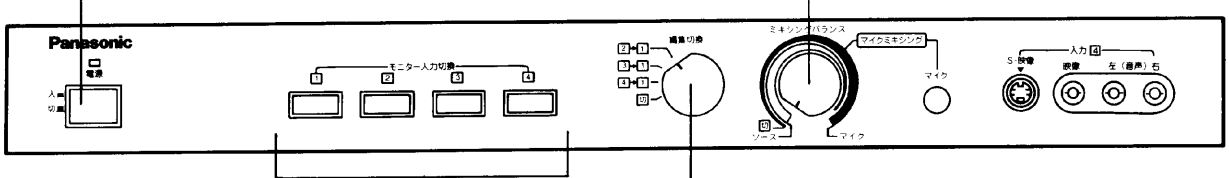
使いかた(つづき)

編集をするとき1
再生側のテープをそっくりそのまま録画するとき

■4ページから8ページまでの「接続のしかた」に従って接続をしてください。
■電源プラグをAC100Vのコンセントに接続してください。(RP-AV600は電源不要です)

610 **1** 「電源」スイッチを押して「入」にしてください。

610 **2** 「ミキシングバランス」ボリュームは「切」の位置にしてください。



3 「編集切換」スイッチを切り換えてください。
■例えば「ビデオ機器2」から「ビデオ機器1」に編集編集するときは「2→1」に切換えます。

4 「モニター入力切換」スイッチを、モニターしたいビデオ機器の番号に合わせます。
■上の例で「ビデオ機器2」から「ビデオ機器1」に編集しているときは「2」を押してください。もし「3」を押せば、編集に関係のない「ビデオ機器3」の映像がモニターできます。
■「ビデオデッキ1」がS対応の場合、その入力切換スイッチは再生側のビデオ機器に合わせて「S-映像」か「外部入力」に切換えてください。

入力切換スイッチ(例)

外部入力
チューナ
S-映像

詳しくはビデオの取扱い説明書をお読みください。

610 マイクロホンをお使いにならないときは、マイクロホンプラグを「マイク」端子から抜いてください。

5 再生側ビデオ機器を「再生」に、録画ビデオデッキ1を「録画」にします。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

編集をするとき2

再生側のテープをつなぎ編集するとき

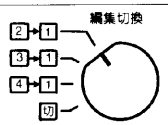
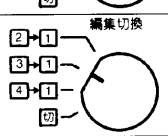
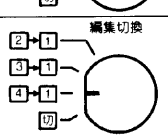
編集中に、他の場面の映像に、つなぎ編集するときは録画しているほうのビデオデッキを「一時停止」したのち、次いで再生側の必要な部分の画像を出し、「一時停止」を解除してください。このとき、つなぎ編集の映像の美しさは、編集に使ったビデオデッキの性能によります。

編集をするとき3

途中でビデオ機器を切り換えてつなぎ編集をするとき

編集中に、途中で他のビデオ機器の映像に切換えてつなぎ編集をするときは、録画しているほうのビデオデッキを「一時停止」したのち、「編集切換」スイッチを切り換え、該当のビデオ機器の映像を出してから「一時停止」を解除してください。このとき、つなぎ編集の映像の美しさは、編集に使ったビデオの性能によります。

編集中のモニター映像

編集切換スイッチの位置 ＼ モニター入力切換スイッチの位置	1を押したときのモニター映像	2を押したときのモニター映像	3を押したときのモニター映像	4を押したときのモニター映像
2→1 	ビデオ機器2の映像	ビデオ機器2の映像	ビデオ機器3の映像	ビデオ機器4の映像
3→1 	ビデオ機器3の映像	ビデオ機器2の映像	ビデオ機器3の映像	ビデオ機器4の映像
4→1 	ビデオ機器4の映像	ビデオ機器2の映像	ビデオ機器3の映像	ビデオ機器4の映像

映像(映像＋音声)を表わします。以下同様

ご注意

1. 操作手順と異なった操作をされた時はうまくモニターできないことがあります。
2. 編集中には「編集切換」スイッチを切り換えないでください。録画された画像が乱れます。
3. 編集中に「モニター入力切換」スイッチを切り換えるとモニター画面が一瞬乱れることがありますが、録画には影響ありません。
4. 「モニター入力切換」スイッチを2つ以上同時に押さないでください。画像や音声が乱れます。(録画にも影響があります)
5. 「出力1」端子に接続した「ビデオデッキ1」がS-映像・録画ができるものであっても、「ビデオ機器2」「ビデオ機器3」からの編集にはS-映像録画はできません。また「ビデオ機器4」にS-映像出力がない場合も同様です。
   このとき、「ビデオデッキ1」の「入力切換」スイッチは必ず「S-映像」から「外部入力」に切換えてください。

   入力切換スイッチ(例)

   詳しくはビデオの取扱説明書をお読みください。
6. 「マイクミキシング」ボリュームの位置は「切」にしておいてください。他の位置にしておくとマイクミキシングの必要のない時にマイクの音が入ったり、ソースの音量が低下することがあります。
7. マイクロホンをお使いにならないときは、マイクロホンプラグを「マイク」端子から抜いてください。

使いかた(つづき)

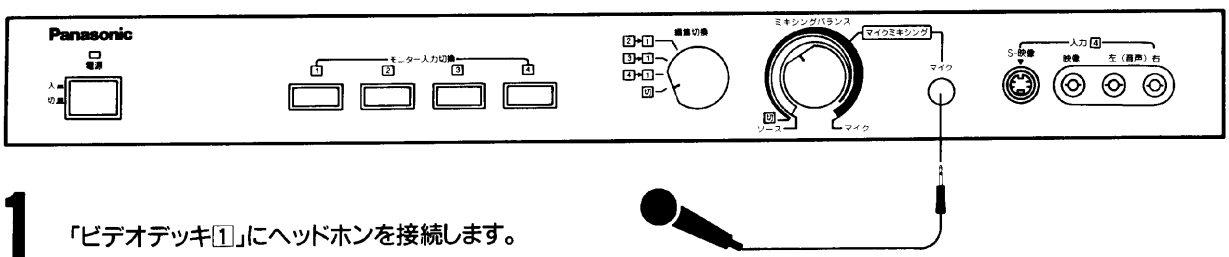
610

ミキシング編集をするとき 1

再生側の音声に、マイクロホンからの音声をミキシングするとき

ミキシングとは、もとからあった音声（音楽・自然の音その他）に、後から新たな音を混ぜ合わせることです。例えばカメラで撮影した映像と同時に入っている音声（ソース）に、後からその映像の説明（ナレーション）を加えることができます。

■4ページから8ページまでの「接続のしかた」に従って接続をしてください。



1 「ビデオデッキ1」にヘッドホンを接続します。

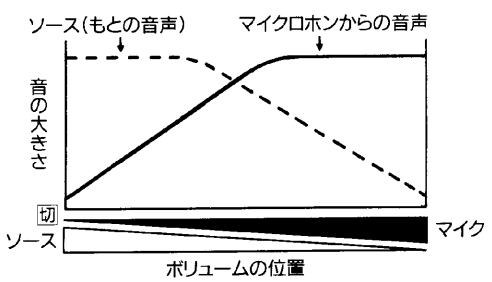
2 マイクロホンのスイッチを「入」(ON)にします。
マイクロホンは声の大きさに合わせて口から適当な位置に離します。（5cm～15cm位）

3 「編集をするとき」(10～11ページ)に従って本機とビデオデッキ、ビデオ機器を操作します。
例えば「ビデオ機器2」から「ビデオデッキ1」に編集するとき、
- 「電源プラグ」を接続します。
- 「電源」スイッチを「入」にします。
- 「編集切換」スイッチを「2→1」に切り換えます。
- 「モニター入力切換」スイッチの「2」を押します。
- 「ビデオ機器2」を再生し、「ビデオデッキ1」を録画にします。

■最初「ミキシングバランス」ボリュームは「切」の位置にしておき、ヘッドホンをかけ、テレビモニターを見ながら、ナレーションを入れたい所へ来たら「ミキシングバランス」ボリュームを右へ回して行き、それからマイクロホンに向って話してください。

■「切」の位置ではソース(もとの音声)だけ、その中間では位置に応じて両方の音が混ざり合って「ビデオデッキ1」に録音されます。

■混合される割合はマイクに入る声の大きさによりますので、ヘッドホンを聞きながら声の大きさやボリュームの位置によって、ソース(もとの音声)との割合を確認してください。



■ナレーションが終ったらボリュームを「切」の位置までもどしてください。

■以上の操作をスムーズに行うと、ソース(もとの音)が小さくなってナレーションが入り、終ると共に、ソース(もとの音)が大きくなって、プロ並みのマイクミキシングテクニックを駆使できます。

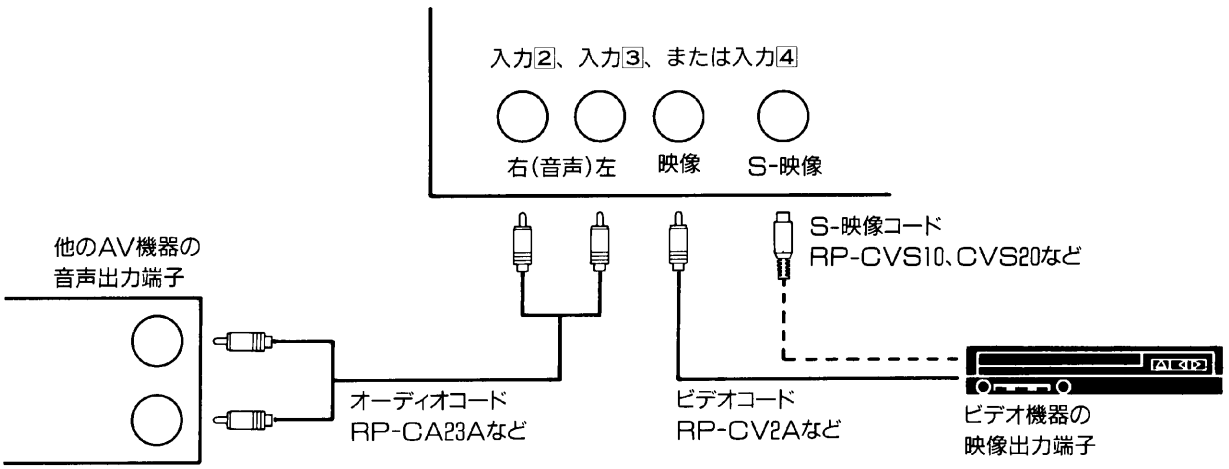
ご注意

1. マイクミキシング時のマイクからの声の音声モニターはヘッドホンでしかできません。これはハウリング(「ピー」「キャー」という音)が出ないようにするためです。
2. ミキシング編集をスムーズに行うために、一度編集の練習をして、コツを身につけてください。
3. マイクロホンをお使いにならないときは、マイクロホンプラグを「マイク」端子から抜いてください。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

ミキシング編集をするとき 2

再生側のソース(もとの音声)を全く使わず、新しい音源を入れて編集するとき



■編集のもとになる映像と音声(ソース)は図のように入力します。

■その他の接続は4ページから8ページまでの「接続のしかた」に従って接続してください。

■AV機器としては、CDプレーヤ、テープデッキ、テープレコーダ、ビデオ機器などを接続します。

610

■ミキシング編集と同様に本機とビデオ機器を操作し、同時にAV機器も再生します。例えばAV機器から音楽を再生し、モニター画面を見ながら、必要な場面で「ミキシングバランス」ボリュームを上げてナレーションを入れることができます。ナレーションが終ったら「ミキシングバランス」ボリュームを"切"にします。これであなたのオリジナルな映像ができます。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

使用上のご注意

- 本機は夏季の閉めきった自動車内(100℃にも達することがある)や、長時間直射日光の当たる所、暖房器などの近くで使用したり、放置しないでください。(60℃以上の高温になると、キャビネットが変形・変色したり、故障することがあります。
- 本機が汚れたときは、乾いた布でふいてください。汚れがひどいときは、布をしめらせるか、石けん水を少し布につけてふいてください。ベンジンやシンナーでふいたり、殺虫剤をかけますと「ひび割れ」や「くもり」を生じることがありますので避けてください。
- 湿気の多い場所やほこりの多い場所では、使用しないでください。
- 本体を落したり、使用中に強い衝撃を与えないでください。

仕　様

入　力：音声(左・右)/映像：ピンジャック4系統(うち2系統はS-映像端子も対応)
出　力：●編集出力
音声(左・右)/映像：ピンジャック1系統(S-映像端子も対応)
●モニター出力
音声(左・右)2系統/映像：ピンジャック1系統(S-映像端子も対応)
映像クロストーク：45dB以上(3.58MHz)
映像周波数帯域：DC～20MHz
音声クロストーク：80dB以上(1kHz)
音声周波数特性：10Hz～100kHz
610 **マイクロホン回路周波数特性**：10～50kHz
610 **電　源**：AC100V 50/60Hz
610 **消費電力**：2.1W
外形寸法：横幅430mm×奥行235mm×高さ(脚部含む)47mm
重　量：2.0kg(RP-AV610)，1.7kg(RP-AV600)

仕様・外観は性能向上のため変更することがあります。

あなたがテレビ放送、実演などを録画したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

610 印はRP-AV610のみの機能です。RP-AV600にはありません。

アフターサービスについて

1. 保証書(裏表紙をご覧ください。)

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後大切に保管してください。

保証期間――お買い上げ日から1年間

2. 修理を依頼されるとき

もう一度取扱説明文をよくお読みいただき、直らないときには次の処置をしてください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れいりますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

お買い上げの販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にご連絡ください。

●保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店へのご依頼ください。
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理します。
販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にご連絡ください。

3. アフターサービス等について、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店またはお近くの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問合わせください。

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
（イ）無料修理をご依頼になる場合には、お買上げの販売店に商品と本書をご持参ご提示いただきお申しつけください。
（ロ）お買上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、お近くのご相談窓口にご連絡ください。
2. ご転居の場合の修理ご依頼先等は、お買上げの販売店またはお近くのご相談窓口にご相談ください。
3. ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、お近くのご相談窓口へご連絡ください。
4. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
（イ）使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
（ロ）お買上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
（ニ）車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷
（ホ）一般家庭用以外(例えば業務用など)に使用された場合の故障および損傷
（ヘ）本書のご提示がない場合
（ト）本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
6. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
7. お近くのご相談窓口は同梱別紙の一覧表をご参照ください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店またはお近くのご相談窓口にお問合わせください。
※保証期間経過後の修理については取扱説明書の「アフターサービスについて」をご覧ください。

パナソニックAVセレクター保証書 持　込

本書はお買上げの日から下記期間中故障が発生した場合には本書裏面記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。詳細は裏面をご参照ください。

品　番	RP-AV600/AV610
保証期間	本　体　お買上げ日より 1カ年
*お買上げ日	平成　年　月　日
*お客様	〒住所 様 （　）
*販売店	所・名 電話　（　）

見本

ご販売店さまへ　※印欄は必ず記入してお渡しください。

松下電器産業株式会社
オーディオ・ビデオ本部 AVアクセサリー部
〒571 大阪府門真市松生町1番4号　TEL (06)909-1021

F0790H1
RFX8032